第Ⅰ章　調査の概要

1　調査目的

過去の経験や見聞きしてきたことにより形成されている「無意識の思い込み」（アンコンシャス・バイアス）は、本人が意識しないところで日々の判断や言動に影響を与えている。様々な場面で徐々に女性の活躍が進んでいるものの、十分に進まない要因として、性別による「無意識の思い込み」の存在が影響している可能性がある。

性別による「無意識の思い込み」は、周囲の言動の影響を受け形成されるとの仮説に基づき、その実態を把握するため、教育機関と連携し、児童（小学校５・６年生）、保護者、教員を対象とした実態調査を行った。

調査結果については、性別による「無意識の思い込み」に対する効果的な啓発方法や子どもの進路・職業の選択肢拡大に向けた施策検討の基礎資料として活用することを目的とする。

2　調査内容

■児童

Ａ　自身に関すること

■保護者

Ａ　家庭に関すること

Ｂ　教員に関すること

Ｃ　児童に関すること

Ｄ　無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の認知度など

■教員

Ａ　自身のキャリア・生活について

Ｂ　校務など教員の職務に関すること

Ｃ　児童に関すること

Ｄ　保護者に関すること

Ｅ　無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の認知度など

３　調査設計

（１）調査対象：都内公立小学校の児童（５年生・６年生）、保護者、教員

（２）標 本 数：児童　　１０，０２０人※1

：保護者　１０，０２０人※2

：教員　　１，８２７人※3　　※標本数＝調査対象者数

※１　令和３年度　公立学校統計調査報告書【東京都公立学校一覧】より調査対象数を設定

※２　調査対象児童数と同数と設定

※３　令和３年度　公立学校統計調査報告書【東京都公立学校一覧】より調査対象数を設定

（３）標本抽出：　学校名簿から対象の学校を無作為抽出し、抽出した学校に在籍している児童・教員の全員および児童の保護者（児童１名に対して保護者１名）を対象とした。

（４）調査方法：インターネット方式

（５）調査期間：令和４年９月１６日（金）～１０月７日（金）

※　調査は３週間（２週間＋延長１週間）かけて実施

（６）調査実施機関（委託先）：株式会社ＣＣＮグループ

4　回収結果

（1）標 本 数：児童　　１０，０２０人
　　：保護者　１０，０２０人
　　：教員　　１，８２７人
（2）回 収 数：児童　　６，６２２人
　　：保護者　　２，１７４人
　　：教員　　８９９人
（3）回 収 率：児童　　６６．１％
　　：保護者　　２１．７％
　　：教員　　４９．２％

５　報告書の見方

①　集計

（１）集計方法

集計は、「ⅰ単純集計」と「ⅱクロス集計」の２種類を行った。

ⅰ　単純集計

設問ごとの、それぞれの選択肢に何人が回答したのかについての単純な集計

ⅱ　クロス集計

回答者の属性と各設問を縦横に掛け合わせた（クロスした）集計

（２）クロス集計項目

クロス集計を行う項目については、性別を基本とした関連項目および、分析のため設問間の関係として必要と判断した項目を採用した。

なお、下記の無意識の思い込みの認知度等に関する設問に重み付けを行い得点化し、合計点に応じて１～４のカテゴリ分けを実施した。

＜保護者＞

（16）	子どもとかかわるなかで無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）を意識している	1．そう思う（4点） 2．どちらかというとそう思う（3点） 3．どちらかというとそう思わない（2点） 4．そう思わない（1点）
（17）	家族間で無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）について話をしたことがある	1．あてはまる（4点） 2．どちらかというとあてはまる（3点） 3．どちらかというとあてはまらない（2点） 4．あてはまらない（1点）
（18）	子どもとの間で無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）を取り上げたことがある	1．取り上げたことがある（3．5点） 2．取り上げたことはない（1．5点）
（19）	無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）について、どの程度知っていますか	1．よく知っている（4点） 2．ある程度知っている（3点） 3．あまり知らない（2点） 4．全く知らない（1点）

＜教員＞

（33）	学校での指導等において無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）を意識している	1．そう思う（4点） 2．どちらかというとそう思う（3点） 3．どちらかというとそう思わない（2点） 4．そう思わない（1点）
（34）	教員間で無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）について話をしたことがある	1．あてはまる（4点） 2．どちらかというとあてはまる（3点） 3．どちらかというとあてはまらない（2点） 4．あてはまらない（1点）
（35）	子供への指導で無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）を取り上げたことがある	1．取り上げたことがある（3．5点） 2．取り上げたことはない（1．5点）
（36）	無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）について知っていますか	1．よく知っている（4点） 2．ある程度知っている（3点） 3．あまり知らない（2点） 4．全く知らない（1点）

分析時のカテゴリ分け

最高点：１５．５
最低点：　４．５

カテゴリ１　１５．５　～１２．７５
カテゴリ２　１２．７５～１０．０
カテゴリ３　１０．０　～　７．２５
カテゴリ４　　７．２５～　４．５

（３）クロス集計表

≪巻末資料≫クロス集計表には、前頁①（２）の項目を基本分類軸として掲載した。

≪巻末資料≫クロス集計表については、「回答しない」を含めて掲載した。グラフおよび本編中のクロス集計結果は、表頭(列側)・表側(行側)とも「回答しない」「性別・その他」等を省いたものを掲載した。そのため、表の全体とカテゴリの合計が一致しない場合がある。例えば、男女計の度数は全体の度数に一致していない。

（４）検定

クロス集計結果の設問間の関係について、カイ二乗検定及びスピアマン順位相関係数を算出して分析を行った。

カイ二乗検定については、有意水準５％(０．０５)、１％(０．０１)、０．１％(０．００１)を設定して、有意水準５%未満のときを有意差ありとした。

検定は、「そう思う」と「どちらかというとそう思う」を≪そう思う≫、「どちらかというとそう思わない」と「そう思わない」を≪そう思わない≫として集計して実施した。また、「あてはまる」と「どちらかというとあてはまる」を≪あてはまる≫、「どちらかというとあてはまらない」と「あてはまらない」を≪あてはまらない≫として同様に集計したうえで検定を実施した。

例)児童：性別×（１）「男の子だから」「女の子だから」と思うことがある

	該当数	そう思う	そう思わない
全体	6622	41.1	58.9
男性	3214	41.6	58.4
女性	3180	41.0	59.0

スピアマン順位相関係数算出結果については、下記を使用した。

ⅰ　｜ｒ｜　＝　１．００～０．７０：かなり強い相関がある
ⅱ　｜ｒ｜　＝　０．７０～０．４０：かなり相関がある
ⅲ　｜ｒ｜　＝　０．４０～０．２０：やや相関がある
ⅳ　｜ｒ｜　＝　０．２０～０．００：ほとんど相関がない

なお、係数値を小数第３位で四捨五入して、小数第２位を算出したものを使用したため、算出結果が０では無い場合でも表記上 0.00 となるケースがある。

また、スピアマン順位相関係数の無相関検定はほとんどのものが有意となるため有意水準の表記は省略した。

②　回答率（%）

（１）回答率（%）の表記

回答率（%）は、小数第２位を四捨五入して、小数第１位を算出したものを使用した。よって、回答数が０人では無い場合でも標記上 0.0 となるケースがある。

（２）単一回答の設問

上記の（１）により、単一回答（選択肢を１つだけ選ぶ：ＳＡ）設問において、すべての選択肢の回答率を合計しても 100%に満たない、または上回る場合がある。

（３）複数の回答の合計値

２つ以上の選択肢を合わせた項目の回答率（%）を表記する場合、その回答率（%）は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、回答率（%）を再計算したものを使用している。このため、複数の回答の合計値と図表の数字が一致しない場合がある。

（４）回答率（%）の比較

回答率（%）の比較を行うにあたっては、ポイントと表記している。

回答率の合計が 100%にならない、または、複数の回答の合計値が一致しない例

	四捨五入前の回答率（小数第２位）	四捨五入後の回答率（小数第１位）
選択肢Ａ	50.15%	50.2%
選択肢Ｂ	39.85%	39.9%
選択肢Ｃ	10.00%	10.0%
合計	100.00%	100.1%

90.00%
＝90.0%

90.1%

100%にならない

四捨五入前の回答率の合計と一致しない

③　割合の表現

数値を考察するにあたり、割合の表現は以下の表の通りとしている。

区分	詳細		表現
0.0%～9.9%	0.0%の場合		記述せず
	0.1%以上で、5.0%には満たない場合		わずか
	5.0%以上で、10.0%には満たない場合		１割未満
10.0%～100.0%	１の位と小数第１位が、右記の場合	0.0～0.4%	○割
		0.5～0.9%	ほぼ○割
		1.0～3.9%	○割超え
		4.0～6.4%	○割台半ば
		6.5～8.9%	○割近く
		9.0～9.4%	ほぼ○割
		9.5～9.9%	○割
まとめる場合	同じ%台をまとめる場合（※１）		○割台
	２つの前後の%にまたがる場合（※２）		○割前後
	２つの後の%台にまたがる場合（※３）		○割以上

※１～３の具体例および表現例は以下の通り。

（※１）71.2%と 76.8%であれば、７割台

（※２）69.3%と 71.2%であれば、７割前後

（※３）71.2%と 83.4%であれば、７割以上

④　文章の一部省略および語句の簡略化

（１）「第Ⅲ章　調査結果の概要」における、設問の回答ルール案内文の取り扱い

ⅰ　単一回答（選択肢を１つだけ選ぶ：ＳＡ）設問については、調査票に記載した回答ルールに関する案内文を省略している。

（省略した案内文の例：次の中から１つだけ選んでください。）

ⅱ　複数回答（選択肢を複数選ぶ）設問については、調査票に記載した回答ルールに関する案内文を省略した上で、複数回答の設問である旨を明示している。

（省略した案内文の例：次の中から２つまで選んでください。）

（複数回答の設問である旨の明示の例：（複数回答）※２つまで）

（２）設問文や選択肢の取り扱い

設問文や選択肢を表などにおいて記述する際、適宜、文章の一部省略や語句の簡略化を行っている。